

**第2期ロジスティクス環境会議
第2回グリーンサプライチェーン推進委員会 議事録**

I. 日 時：2006年11月10日（金） 15：00～17：50

II. 場 所：東京・港区 社団法人日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：28名

IV. 内 容：

1) 分科会活動

<取引条件分科会>

(1) 第1期活動成果のレビューと取引条件に係る最近の動向等について

(2) 取引条件分科会のミッションと活動内容について

<源流管理分科会>

(1) 源流管理分科会のミッションと活動内容について

(2) LEMSチェックリスト及びその他関連事項について

2) 勉強会

V. 開 会

事務局より開会が宣された後、山本委員長の司会のもと、以下の審議が行われた。

VI. 報 告

1) 研究会、委員会の活動状況について

事務局より、グリーン物流研究会、CO2削減推進委員会の活動状況について説明がなされた。

2) 本日の活動内容について

事務局より、本日の進め方について説明がなされた。

VIII. 議事

1) 分科会活動

<取引条件分科会>

(1) 第1期活動成果のレビューと取引条件に係る最近の動向等について

事務局より、資料2-1、2-2に基づき、第1期活動成果のレビューと取引条件に係る最近の動向等について説明がなされた。

その後、分科会メンバーから、自己紹介及び取引条件に対する自身の捉え方について説明がなされた。

(2) 取引条件の取引条件分科会のミッションと活動内容について

事務局より、資料3-1、3-2に基づき、ミッションと活動内容について説明がなされ、以下の意見交換がなされた。

【主な意見】

幹 事：来年3月の本会議の時点では、どの段階まで作成できていけばよいのか教えていただきたい。

事務局：マニュアルのレジュメが提出できればと考える。

幹 事：先ほど説明があった第1期省資源ロジスティクス推進委員会についても、十分な調査がで

きていなかった。したがって、次回からアウトプットの作成に入るのではなく、取引条件について何をしなければいけないかメンバーで討議してはどうかと考える。

委員：漠然と「取引条件について」といっても、話が発散する恐れがあるので、ある程度具体的なものに絞って検討をする必要があると考える。

委員：大都市圏の物流のみならず、地方の物流に関してもこの場で検討いただき、アウトプットに記述していただければと考える。

委員：一言で“多頻度小口輸送”といっても業種業態、また各人それぞれの会社内で置かれている立場によって思うところに差異があると思われるので、一度、多頻度小口輸送について各人が考えることを発表してもらってはどうかと考える。

委員：卸売業においては、多頻度小口輸送についても入庫側と出荷側では考え方が異なる。各プレーヤーの考え方を聞くという提案には賛成である。

委員：製造業、卸売業、小売業、物流事業者とメンバーがそろっているので、基調講演的に発表していただくことも一案ではないか。

【決定事項】

- ・ 本分科会の検討テーマとして、多頻度小口輸送を取り上げる。
- ・ 第3回委員会開催前に、メンバーが多頻度小口輸送について考えていることをご提出いただく。その際のたたき台を恒吉幹事が作成する。(メンバーへの依頼：11月下旬予定、提出12月中旬予定)
- ・ 提出いただいたものをもとに、事務局で分類整理し、議論の大枠と論点を整理する。

<源流管理分科会>

(1) 源流管理分科会のミッションと活動内容について

冒頭、第1回委員会を欠席された2名の方、及び代理出席2名の方より自己紹介が行われた後、事務局より、資料4に基づき、源流管理分科会のミッションと活動内容について説明がなされ、以下の意見交換を経て、承認がなされた

【主な意見】

幹事：事務局の提案は理解したが、当初の源流管理分科会設置目的とチェックリストの作成では乖離があるのではないか。

事務局：企画運営委員会で承認されているので問題ない。

幹事：グリーン物流における源流管理について、メーカー、物流事業者、流通業等の各企業がどのように行うかといった視点で考え、そのアウトプットとしてチェックリストのようなものを出してはどうかと考えている。

(2) LEMSチェックリスト及びその他関連事項について

事務局より、資料5-1、5-2に基づき、LEMSチェックリストについて説明がなされ、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見】

幹事：「LEMSのチェックリストの改定作業」が本分科会の目的となるのか教えていただきたい。

事務局：その部分も含めてご議論いただきたい。

委員：実際にチェックした際に、どちらにつければいいか難しい設問が多かった。また、項目として、物流センター系の項目が少ないと考える。また、プロットすることで自社のポジションが分かる仕組みになるとありがたいと考える。

委員：自社も改正省エネ法の特定荷主に該当することが確実となり、省エネ対策が必要となる。したがって、施策を実施したことが、どの程度効果として現れるのか分かるようなものが必要ではないかと考える。

委員：チェックリストの設問によって、レベルに差異があるように感じる。

- 委員：「環境負荷を与える内容としてこのような項目がある」といったことをまとめるのも一案ではないか。
- 委員：輸送モードの変更や、ロットの大小等、各施策についての事例集を作成することも一案ではないか。
- 委員：環境対応先進企業向けのツールを作成するのか、あるいはまだ環境問題に関心を持っていない企業向けのツールを作るのかによって、内容等は変わってくると考える。
- 幹事：環境宣言の②、③にあるとおり、底辺を広げていくことが重要だと考える。
- 委員：単にチェック項目だけではなく、その定義や関連する事例のURLの掲載等を行ってはどうか。
- 委員：この分科会で作成したものを企業内でどの程度重みをもたせることができるかが重要だと考える。
- 委員：環境監査とリンクするような内容のものを目指してはどうかと考える。
- 幹事：個人的な意見としては、毎年チェックリストを実施し、業界全体としてどうなったか、自社のポジションはどの程度かといったベンチマークに使用できればいいのではないかと考える。
- 事務局：自社のSCM力をベンチマークできるツールとして、東工大とJILSで開発したSCM/ロジスティクススコアカードがある。それは、各項目について5段階のレベルを設定し、回答者に自社のレベルを選択していただく形式のものである。
- 幹事：スコアカードとすると、設問ごとにどのような重みづけをするかといったことも検討する必要が出てくるので、複数レベルを設けることは辞めた方がよいと考える。ただし、LEMSチェックシートのように実施の有無だけではなく、例えばある到達レベルに達したかどうかを記載してはどうかと考える。
- 幹事：環境会議の活動は我々メンバーのみの活動となる。いろいろ作成したいという思いはよく分かるが、物理的にどうしても限られた範囲になってしまう。活動期間、回数も考慮した上で、現実的に可能なアウトプットを作成できればと考える。

(その他)

- 委員：改正省エネ法において内航船の原単位が1つしかないなどといった問題点への提言をこの分科会で行うのか教えていただきたい。
- 事務局：改正省エネ法に伴う部分については、CO2削減推進委員会で検討している。また、ご指摘のあった原単位については、現在、グリーン物流パートナーシップ会議のCO2算定WGで検討中である。

【決定事項】

- ・ 大枠としては、環境負荷を減らす各物流サービスについて、どのレベルまで到達したら、評価できるかといったことが客観的に分かるようなチェック項目を設けるとともに仕組み作りを目指す。
- ・ LEMSチェックリストのように、単に項目を羅列するだけではなく、例えば当該項目の解説や当該項目に関する事例が紹介されているURLの掲載等、他に盛り込むべき事項を検討する。
- ・ 本日の意見を受けて、事務局でアウトプットイメージ案をまとめ、両幹事に確認を取った後、委員会メンバーに送付する。その際に、LEMSチェックリストの項目の追加、修正及び削除、ならびにそこに盛り込むべき内容について、メールによりアンケート調査を実施する。

2) 勉強会

以下のとおり、勉強会が開催された。

- 1) 文化ファッション大学院大学 鈴木委員
「グリーンサプライチェーン推進への経緯と期待」

■次回発表者：①流通経済大学 矢野 副委員長
②東芝物流 堀口委員

3) その他

第3回委員会開催日時については、2007年1月19日（金）14時～17時（勉強会1時間、議事2時間）とする。

VIII. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、山本委員長は閉会を宣した。

以 上